

事務事業評価表

1. 基本事項

作成日 令和05年06月14日(水)

事務事業		救急活動事務		担当課	深谷消防課	担当係	深谷消防署	管理番号	54811
総合計画	大項目	4	安心とやすらぎを感じられるまち		事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務			
	中項目	1	備えができて安全・安心なまちづくり		根拠法令 個別計画等	・消防法・消防組織法・救急救命士法 ・深谷市救急業務に関する規則 ・深谷市救急業務取扱細則			
	小項目	2	消防・救急体制の充実						
	主要プロジェクト								
事業概要		管内で発生した各種災害等により負傷した傷病者の状態を的確に判断し、必要な処置を施して適切な医療機関に搬送する。 救急資器材の整備及び救急隊員の訓練を実施するとともに、住民に対する応急手当の普及啓発に努め、救命率向上を図る。							
目的 ※何のために		傷病者の救命率及び社会復帰率の向上。							
対象 ※誰・何を対象に		住民の生命、身体及び財産。							
手段 ※どのように		各種災害現場までの現場到着時間と現場滞在時間（病院連絡時間）の短縮を図る。							
成果 ※何を求めるか		早期に医療機関へ搬送することで、傷病者の救命率と社会復帰率の向上を図る。							
執行体制		<input checked="" type="checkbox"/> 職員 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 市民ボランティア <input type="checkbox"/> NPO等 <input type="checkbox"/> その他（ ）							
事務事業を構成する 予算事業		区分	款	項	目	細事業名		前年度決算額（円）	
本事業の 主な業務		・救急等災害対応業務				・救命講習の実施			
		・救急資器材の維持管理業務				・			
		・救急訓練の立案、調整、実施に関する業務				・			
		・応急手当普及啓発業務				・			
		・救急活動事例研究				・			
		・救急活動記録票、統計及び即報の作成事務				・			

2. 事業費（投入コスト）

単位：円

区分		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
年度別計画							
事業費	予算（現額）	0	0	0	0		
	決算額	0	0	0	0		
	財源内訳	国支出金	0	0	0		
		県支出金	0	0	0		
		地方債	0	0	0		
		他特定財源	0	0	0		
		一般財源	0	0	0		
人件費	従事職員数（人）	0.10	0.10	0.25	0.25		
	人件費相当試算※	776,192	786,956	2,049,097	2,049,097		
	総事業費試算	776,192	786,956	2,049,097	2,049,097		

※ 人件費相当額試算は、従事職員数に平均人件費を用いて試算したものです。

3. 評価指標

区分	指標名		目標値	単位	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度
			実績値							
	目標値の算定根拠/実績値の出所									
実績値の算出式										
活動指標 1	救急出場件数（暦年）		目標値	件						
			実績値		5,986.00					
	目標値の算定根拠/実績値の出所			救急出場件数であり目標値の設定に値しない。/出場件数						
	実績値の算出式									
活動指標 2	訓練・研修回数		目標値	回	32.00					
			実績値		32.00					
	目標値の算定根拠/実績値の出所			年間訓練計画に基づく目標値。（実施回数を計上。1回が数か月に渡るもの有。） / 実施回数						
	実績値の算出式									
活動指標 3	資器材点検実施率		目標値	%	100.00					
			実績値		100.00					
	目標値の算定根拠/実績値の出所			100%の資器材点検を目標とする。 / 実施日／365日×100						
	実績値の算出式									
成果指標 1	資器材常時使用可能率		目標値	%	100.00					
			実績値		100.00					
	目標値の算定根拠/実績値の出所			車載されている全資器材常時使用可能率。 / 使用可能数／全資器材×100						
	実績値の算出式									
成果指標 2	現場到着時間		目標値	分	7.00					
			実績値		9.25					
	目標値の算定根拠/実績値の出所			救命率が著しく低下していく時間（7.0分） / 覚知から現場到着までの時間（過						
	実績値の算出式									
成果指標 3	病院収容所要時間		目標値	分	43.60					
			実績値		50.80					
	目標値の算定根拠/実績値の出所			（参考）埼玉県平均病院収容時間43.6分（平成28年数値） / 覚知から病院収容までの時間（過						
	実績値の算出式									

4. 観点別評価

観点別評価は、指標達成の有無の他、その達成率も勘案して総合的に評価します。
目標値の設定がないものについても、進捗状況等を踏まえA～Cの三段階にて評価します。
事業達成度評価は、意図した活動により事業目的に合う成果がでているかを評価します。
（評価基準）（A:達成している B:おおむね達成している C:達成していない）

（1）事業達成度評価

区分	評価の観点	評価	評価理由・指標数値の推移
活動	・活動実績は、見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか。	A	昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により救急出場件数が増加した。 訓練、研修回数は計画どおり実施できた。 資器材適正な維持管理のため点検は毎日実施した。
成果	・意図した成果が上がっているか。 ・指標未達成の場合は、その原因を分析できているか。	B	適正に資器材点検を行い、訓練、研修を実施した。今年度、現場到着時間及び病院収容時間が延長したのは、主に新型コロナウイルス感染対策が挙げられる。感染症疑い事案を含めて入電時から聴取項目が増加した。現場到着時間は、救急出場の増加、また感染者対応後の整備時間延長で直近でない署所からの出場があった。病院収容所要時間は、保健所との連携で入院可否の判断から入院先調整に時間を要した。
			評価者 救急係 宇野泰広・矢嶋克則

（2）事業効率性評価

事業効率性評価は、執行体制や手段など効率的に事務事業を執行しているかを評価します。
（評価基準）（A:効率的である B:高める余地あり C:効率的でない）

区分	評価の観点	評価	評価理由
効率性	・ICTの活用や業務改善が充分か。 ※検証必須 ・コスト面など効率的に執行できているか。 ・民間委託や他事業との統合・連携が可能か。	B	各種資器材に精通する訓練やシミュレーション訓練を計画的に行い、新規に導入した自動心肺蘇生器を有効活用するために訓練を行った。現場活動においては傷病者を適切に観察し、適切な資器材で必要な処置を迅速に行い、効率的な活動を行った。
			評価者 救急係 宇野泰広・矢嶋克則

5. 前年度改善改革プラン達成状況

令和3年度の評価を受けて 設定した改善・改革案	病院収容時間の短縮を図るためには、実効性のあったプレアライバルコールの更なる有効活用や救急医療情報システムの活用方法の検討、新規に導入された自動心肺蘇生器取り扱い訓練を実施した。また検討結果を踏まえた救急訓練を実施し、新型コロナウイルス感染防止を図りながら、病院収容時間の短縮を行う。
達成状況及び その効果	数値として病院収容時間は延長する結果となったが、新型コロナウイルス感染症対応では感染防止を徹底し、自動心肺蘇生器の活用で感染対策が向上した。プレアライバルコールや救急医療情報システムの活用、保健所との連携で第8波に対応した。救急活動の改善では補えない部分（保健所による入院調整）も影響している。 感染防止を徹底したことで、住民に不安を与えることは無かった。

6. 所属長評価（今後の方向性）

事務事業	救急活動事務	担当課	深谷消防課	担当係	深谷消防署	管理番号	54811
<div><div><input type="checkbox"/> ①拡充, 重点化(コスト投入)</div><div><input type="checkbox"/> ②現状のまま継続</div><div><input checked="" type="checkbox"/> ③見直して継続</div><div><input type="checkbox"/> ④目的達成による終了</div><div><input type="checkbox"/> ⑤廃止を検討</div></div> <div>■委託化等の検討</div> <div><input type="checkbox"/> 成果向上のための改善</div> <div><input type="checkbox"/> 効率化のための改善</div> <div><input type="checkbox"/> 事業規模の縮小</div> <div><input type="checkbox"/> 他の事務事業と統合</div>		評価の内容説明					
		新型コロナウイルス感染予防対策の実施及び救急出場が増加傾向であることから、現場到着時間及び病院収容時間が延長しているため、時間延長要因の検証を実施し、対策を講じていく必要がある。今後も積極的なプレアライバルコールの実施や、救急ワークステーションでの病院研修を積極的に行い、救急隊員の知識技術の向上を図り、迅速で適切な現場活動を目指し、現場到着時間及び病院到着時間の短縮に繋げていく必要がある。					
上記を実施するための具体的な取組内容は？		評価者	消防課長 鴻野匡志				

7. 改善改革プラン・今後の課題

令和5年度に実施する 改善・改革案 （事業目的・各指標の達成に必要な改善、業務の効率化を図るための改善）	病院収容時間延長の主たる理由として、新型コロナウイルス感染症対応を挙げていたが、受け入れ医療機関の体制も充実してきたことから時間短縮の改善が見込める。救急ワークステーションでの研修にて救急隊員の知識技術の向上が期待でき、病院スタッフとのコミュニケーションが図れる。今年度も傷病者に対する観察及び必要な処置を適切に行い、効率的な活動を実施して、病院収容までの時間短縮を目指す。
令和6年度以降に取り組む 改善・改革案・今後の課題 （事業目的・各指標の達成に必要な改善、業務の効率化を図るための改善）	年々救急出場件数が増加傾向であるが、医療資源は限られているため、受け入れ医療機関選定困難事例が発生することで、病院収容時間の延伸が予測される。傷病者の搬送及び医療機関による受け入れを適切かつ円滑に行うために、救急ワークステーションでの研修を継続し、時間短縮を考えた救急訓練、救急医療情報システムの有効活用の検討をすることで病院収容時間の短縮を図る。

8. 評価指標グラフ

区分	活動指標 1	指標名	救急出場件数（暦年）
区分	活動指標 2	指標名	訓練・研修回数